

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

チュウホクドットコム

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

no
5

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします



伸びゆく年に

中北教育事務所
副所長 松野 実

あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、希望を託す新たな年の幕開けとなりましたことに、心よりお喜び申し上げます。また、日頃より中北教育事務所の地域教育関連への御理解と御協力に深く感謝申し上げます。

昨年は県内の4教育事務所において地域教育支援スタッフが1名減となり、中北教育事務所でも、これまでの3名体制から2名体制となりました。学力向上を期して地域学力向上推進幹が新設される反面、地域教育支援スタッフの減少は、大変大きな痛手となりましたが、関係各位の御支援と御協力により業務が円滑に遂行されておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、昨年一年間の世情を振り返りますと、「戦争法案」とも揶揄された安全保障関連法の審議過程へ多くの国民の不安や関心が高まったこと、パリ同時多発テロをはじめとするテロ事件が続発したこと、大手建設会社による杭打ちデータ改ざん疑惑、火山の噴火や、豪雨による鬼怒川の堤防決壊になど異常気象の影響と思われることなどが思い起こされます。そのような点が選考理由となり、清水寺において行われた年末恒例の「今年の漢字」は「安」に決まりました。まさに、「安心」の「安」ではなく「不安」の「安」を表す一年でした。

一方、本県においては10月5日に全県民を歓喜させるビッグニュースが伝えられました。中北地域韮崎市出身の大村智博士がノーベル医学・生理学賞を受賞されたという朗報でした。大村博士は地元韮崎高校・山梨大学を卒業後、東京の定時制高校に奉職され、高校に勤務する傍ら東京理科大学大学院に学び、以来、山梨大学文部教官助手・米国ウエスレーヤン(Wesleyan)大学客員教授・北里大学薬学部教授等を歴任され、以来、研究に没頭されています。大村博士によりますと、「少年時代に家の野良仕事を手伝った際に、木の葉と糞をし尿と混ぜて微生物を繁殖させる堆肥作りに励んだ。この韮崎での体験が実験と研究の原点になった。生まれ故郷抜きに研究人生は語れない。」そうです。さらには、「何か一つでも人のためになることができないか、いつも考えていた。」の言葉に、大村博士の信念、そして、人柄が表れているように思います。まさに、山梨の風土・文化が生んだ「偉人」であり「宝」です。大村博士のような人物を育てることが、今後の山梨県の教育に期待されることだと思います。

2016年は干支でいうと丙申(ひのえさる)です。「申」という字は「伸ばす」という意味をもち、「樹木の果物が熟して固まっていく様子」を表したものだそうです。今年一年が、日々、安全・安心で伸びゆく年となることを念じ、併せて、皆様にとって希望に満ちた素晴らしい一年となりますことを願っております。

山梨県放課後子ども総合プラン推進事業 第2回推進委員会

北杜市立 長坂小学校見学



平成27年11月4日(水)に山梨県放課後子ども総合プラン推進事業の第2回推進委員会が開かれました。この日は、会場を北杜市立長坂小学校とし、同校を中心として活動している「長坂西放課後児童クラブ(放課後児童クラブ)」と「ワクワク教室ながさか(放課後子ども教室)」の様子を見学させていただきました。

北杜市の中央部に位置する長坂町は、小学校を、長坂中学校、甲陵中学・高校が隣接する文教地区に配置しています。平成25年に4つの小学校を統合して新しい学校を作ったのを機に校舎および付帯施設の整備が行われました。

北杜市の中央部に位置する長坂町は、小学校を、長坂中学校、甲陵中学・高校が隣接する文教地区に配置しています。平成25年に4つの小学校を統合して新しい学校を作ったのを機に校舎および付帯施設の整備が行われました。

「ワクワク教室ながさか(放課後子ども教室)」では晴天の下、富士山がよく見える校庭で子どもたちと地域のボランティアでグラウンドゴルフを通じての交流を

行っていました。グラウンドゴルフの道具の用意や、ルールへの指導は地域の方がボランティアでしてくださっているそうです。子どもたちと交流できるばかりでなく、ルールに親しむことによって競技人口を増やすことにも繋がるので、win-winな関係で指導をお願いできているのだそうです。

「長坂西放課後児童クラブ(放課後児童クラブ)」では、校内の施設と、隣接する「長坂三世代交流の家」を使い、生活の場として子どもたちを受け入れ、指導を行っていました。

北杜市では平成27年度から「放課後子ども総合プラン」に移行することに伴い、放課後子ども教室と放課後児童クラブが一体的に実施できるように考えられています。



峡中社会教育の会 ~ 親子しめ縄づくり ~

地域に伝わる正月仕度の伝統を親子で体験しようと、峡中地区社会教育の会主催の「親子しめ縄づくり教室」が、平成27年12月13日(日)甲府市立千塚小学校で開かれました。この日は8組の家族が参加し、葎崎市の東条さんの指導のもとで作業を行いました。まず中心の輪になる縄をなうのですが、子どもも大人も縄ないは初めてで思うようにできません。各組についた会員と千塚小の山坂校長をはじめ教職員の補助を受け、ようやく完成させることができました。次に稲穂のつ

の会員の方々と東条さんと、藁や飾り、道具などを準備していただき、細かな気配りのもと約2時間ほど作業を続けました。形もできあがりはじめると、ますます集中してきます。完成したときはどの親子にも達成感がみられました。このような作業を通し、親子のふれあいが深まったのではないのでしょうか。参加した親子は、「苦労して作ったしめ縄は、買った物とはまたちがう愛着があり、早く飾って良いお正月を迎えたい。」と話していました。



いた藁を付け、両脇に袴をつけ、飾りを次々と取り付けていきます。縄に飾りの針金を通すところは意外と難しく、親子で力を合わせていました。

社会教育の会



H27年度 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 無事に終了しました

平成27年
10月23日
(金)に山梨
県立大にて、
平成27年度
子育て支援
リーダー・ス



テップアップ講座の修了式が行われ、本年度の受講生35名に社会教育課の相河課長より修了証が手渡されました。

山梨県立大学の池田政子特任教授より、グループ自主研究発表の内容について、「本年の研究内容は、コミュニケーションに関するテーマが多かったが、これは現代社会の中心的問題である。ぜひ子どもたちとの生身(なまみ)のコミュニケーションを大切にして、日々の指導を行って欲しい」と講評をいただきました。高野牧子教授からは、今後支援リーダーとして活動してゆく指針として、「課題意識を

しっかりと持って確かな情報を手に入れ、わかりやすく伝えて欲しい。そして今回知り合った仲間を大切に互いに協働して欲しい。最後に、笑顔でユーモアを持った支援者であり続けて欲しい」と講座全体への講評をいただきました。

受講生たちはこの講座で学んだことをこれから活かすべく、気持ちを新たにしていました。



H27年度 ワクワク子育て親育ちプログラム学習講座 無事に終了しました

平成27年12月14日(月)に山梨県立大にて、平成27年度ワクワク子育て親育ちプログラム学習講座の修了式が行われ、本年度の受講生に社会教育課の相河課長より修了証が手渡されました。

同講座は、教育庁社会教育課より保・幼・小・中・高・特支の各学校に配布されている「ワクワク子育て親育ちプログラム」冊子の活用法を演習を通じて学ぶ学習講座でした。11月9日から12月14日までに6回の講座が開催され、参加者は親(保護者)と支援者(保育士、学童・放課後子ども教室指導者)など様々な立場の方が参加されました。講座内容

は同冊子のプログラム自体を学ぶと同時に研修会のファシリテーター(指導者)としての技術を磨くことに重点を置き、「子育て支援リーダー・ステップアップ講座」よりも演習的な講座となりました。



山梨県教育委員会

講座修了後に受講生たちは、これからの活動のネットワークづくりのために、お互いの連絡先を交換していました。

本プログラム冊子は、県内の全ての保・幼・小・中・高・特別支援学校に配付されていますし、山梨県教育庁社会教育課のホームページよりダウンロードすることができます。(URLは下記参照)

<https://www.pref.yamanashi.jp/shakaikyo/wakuwakosodateoyasodatisassi.html>



リニアモーターカー試乗体験記

平成27年11月20日(金)に「山梨県リニアどきどき体験乗車」に参加しました。2027年に開通が予定されているリニアモーターカーの様子を報告させていただきます。

リニアモーターカーの体験乗車は、JR東海が実施している体験乗車会のうち、1日を山梨県民を対象に、県が費用補助をおこなって開催されたものです。案内に従って、往復はがきで応募しました。応募は2席または4席とのことですので、今回は4席で応募しました。程なく返信はがきに当選した旨と、料金の振り込み案内が届きました。料金は県からの半額補助を受けて、4人分で4,320円でした。ちなみに、倍率は32.8倍だったそうです。

当日は6便まであるなかの第4便ということで14:15分の集合でした。少し早めについて、リニア見学センター(わくわくやまなし情報館、どきどきリニア館)を見学しました。

集合時間になり、身分確認をして搭乗券をもらい、待合室で説明を受けました。各便120名乗車ということでした。待合室では、搭乗座席どおりに着席し、説明を受けます。



進みます。最初は新幹線の速度(時速280km)の体験です。車輪走行時は、揺れを感じますが、浮上してしまうととてもスムーズでした。



上野原で折り返し、笛吹市へ向かいます。今度は時速500kmまで加速します。大きな加速感は感じられず、普通の新幹線に乗っているような感じです。ただ時速500kmではさすがに微振動を感じます。やはり飛行機に乗っているような印象です。時速500kmでリニア見学センター前を通過します。あっという間に笛吹市に到着し、折り返します。途中、トンネルが切れて空が見えるところがあります。やはりトンネルよりも気持ちが良いですが、乗車の安定感はトンネルの方が良いように感じられました。またまた時速500kmを出して、すぐに都留市の実験センターに到着してしまいました。

都留～上野原～笛吹市～都留と42.8kmの往復(83.6km)を20分程度で走りきりました。全



線開通すると東京まで25分、名古屋まで25分とのことですが、確かにこの速さならそれも不可能ではないと実感しました。列車の使い勝手と飛行機のスピードを両立させた乗り物という印象でした。先日の山梨県が実施したアンケートでも「山梨県は移住・二地域居住先の候補地」と15.9%が答えたそうですが、実際に乗ってみると、スピードによる時間短縮の効果が実感でき、開通すれば来県者はこの数字よりも期待できると思えます。2027年の開通が待ち望まれる体験でした。(野崎)

いよいよ乗車ですが、搭乗口はまるで飛行機の様でした。車内の座席は2列・通路・2列の配置ですが従来の新幹線の様でした。



出発は14:35分頃、まず東京方面へ向かいます。時速140kmまでは車輪を使い、それ以後は浮上して

[お知らせ]

峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

期 日：平成28年 2月23日(火) 14:00～16:30

テーマ：「防災の心構え

- 避難所運営ゲーム(HUG)を通して -」

講 師： 吹野 健彦 氏

(山梨県総務部防災危機管理課)

平成27年度 『中北.com』 5

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援
担当 飯 田 野 崎

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013

中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>

お詫び：中北.com, No.4のピプリオバトル観戦記ですが、高校生の部の長谷川さんは関東・甲信越大会への出場権獲得ではなく直接全国大会(1月10日よみうり大手町ホール)への出場権を獲得しました。お詫びすると共に訂正させていただきます。